

表 14-3 抗腫瘍剤一覧表

				成腫リチウム	カルバマゼピン	バルプロ酸	④:禁忌
カルバマゼム系	イミペネム・シラスチン(OPM/GS)	チエナム				④	↑:注意薬の作用増強
	ハニペネム・ベタメプロン(PAPM/BP)	カルベニン				④	↑:注意薬の作用減弱
	メロペネム(MEPM)	メロペン				④	↑:向精神薬の作用増強
	ヒアペネム(BPM)	オメガシン				④	↑:向精神薬の作用減弱
	トリベナム(DRPM)	フィニハックス				④	その他
	フロベナム(FRPM)	フロム			④カルバマゼムとの三薬併用で		
	エリスロマイシン(EW)	エリスロシン			c		
	クラリスロマイシン(CAM)	クラリス			g		
	ミチガマイシン(MDM)	ミチマイシン			o		
	キヌプリシチン・オルホプリシチン(OPR/DPR)	シナシッド			c		
ステロイドホルモン系	トキシサイクリン(DOXY)	ビブラマイシン			↑(半減期短縮)		
	イソニアジド(INH)	イスコチン			④:肝毒性の増強		
	ネビラピン(NVP)	ビラモーン					
	エファピレンソ(EPV)	ステックリン			↑		
	テラビルジン	レスクリプター			↑		
	インジナビル(IDV)	クリキンパン			↑		
	サキナビル(SQV)	フォートベイス			↑		
	リナビル	ノービア			g		
	ロピナビル・リトナビル	カレトラ			↑		
	ネルフィナビル(NFV)	ビラセプト			↑		
抗HIV薬(HIVプロテアーゼ阻害薬)	ホスアンプレナビル	レクシガア			↑		
	アタザナビル(ATV)	レイアタツ					
	ダルナビル	プリジスタ			↑		
	ラレグナビル	アイセントレス					
	アムテリジンB(MPH+B)	ファンキリン					
	フルシドンB(FD)	アンコナド					
	エトコナゾール(EGZ)	フロリード			c		
	フルコナゾール(FLZ)	ジフルカソ					
	ホスフルコナゾール(F-FLZ)	プロジフ					
	イトコナゾール(ICZ)	イトリゾール			↑c		
抗真菌薬	ボリコナゾール(VRCZ)	ブイフェンド			④↑		

表 14-4 抗ウイルス薬

ニューキノロン系	モキシフロキサシン(MFLX)	アベロックス	クロミプロタミン	アミトリプチリン	アモキシシリン	マプロチリン	ミアンセリン	トラゾドン	フルボキサミン	ミルナタンブラン	パロキセチン	セルトラリン	その他
サルファ剤	リネゾリド(LZD)	サイボックス	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	*抗うつ薬
抗結核薬	ST合剤(スルファメトキサゾールトリメトプリム)	バクタ	◇	◇									◇/ミミプラミン
抗HIV薬 (HIVプロテアーゼ阻害薬)	リファンシニン(RFP)	リファジン											◇/ノルトリプチリン等
	リトナゼビル	ノービア						◇					
	ロピナビル/リトナゼビル	カレトラ						◇					
	ネルフィナビル(NFV)	ビラセプト											
	ホスアンブレンナゼビル	レシグア		◇							◇		◇**三環系
	アタサナビル(ATV)	レイアタツツ			◇						◇	◇	◇**三環系
	ダルナゼビル	ブリジスタ											
	ラルテグラゼビル	アイセントレス											
	アムデリンB(AMPH-b)	ファンギソル											
	フリシドン(S-FD)	アンコチル											
	ミコナゾール(MGZ)	フロリード											
	フルコナゾール(FLGZ)	ジフルカン											
	ホスフルコナゾール(F-FLGZ)	プロジフ											
	イトラコナゾール(ITOZ)	イトリゾール											
	ボリコナゾール(VRGZ)	バイアエンド											
	テルビナフィン	ラミシール		◇									
薬性抗真菌薬	ミカファンギン(MCFG)	ファンガード											
カリニ肺炎	ペンタミジン	ペナンバックス											
◎:禁忌													
↑:治療薬の作用増強													
↓:治療薬の作用減弱													
◇:向精神薬の作用増強													
◇:向精神薬の作用減弱													
その他													



表 14-6 抗源別-その他

βラクターゼ阻害薬	セフォペラゾン・スルパクタム	スルペラン	シナミド	ジスリフラム	トネベジル	フルマゼニル	ダントロレン	その他
注射第2世代セフェム	セフメタゾール(GM2)	セフメタゾン						軟液(ジスリフラム様作用)
	セフミナキシム(GM3)	メイセリン						軟液(ジスリフラム様作用)
	セフペラゾン(CB2)	トミボラン						軟液(ジスリフラム様作用)
	セフピラミド(GP)	サンセファール						軟液(ジスリフラム様作用)
注射第3世代セフェム	セフォペラゾン(OP2)	セフォペラジン						軟液(ジスリフラム様作用)
	セフメノキシム(GM)	ベストコール						軟液(ジスリフラム様作用)
	ラガモキセフロム(GM)	シタマリン						軟液(ジスリフラム様作用)
アミノグリコシド系								Ⓢ菌糸薬・拮抗薬で呼吸抑制
テトラサイクリン系	トキシサイクリン(DOXY)	ビブラマイシン						↓フェニトイン・バルビツール酸誘導体(中毒期短縮)
クロラムフェニコール系	クロラムフェニコール(OP)	クロロマイセチン						↓バルビツール酸誘導体・フェノバルビタール等
グリコペプチド系	バンコマイシン(NGM)	塩酸バンコマイシン						全身麻酔薬・チオペンタール等でヒスタミン遊離作用
サルファ剤	ST合剤(スルファトキサゾール・トリメトプリム)	バクタ						Ⓢフェニトイン
	イニアンド(INH)	イスコチン						Ⓢ括てんかん薬(フェニトインなど)
拮抗薬	パラミサリチル薬(PAS)	ニッパシカルシウム						Ⓢフェニトイン
	アルミノアラブミン/ナリチル薬	アルミニウムニッパシカルシウム						Ⓢフェニトイン
	サイクロセリン(GS)	サイクロセリン						Ⓢ軟酒
抗インフルエンザウイルス薬	アマンタジン	ジメタレル						拮抗薬・抗コリン薬・中枢神経興奮薬などで精神症状
拮抗薬(スクオオチド系抗真菌系阻害薬)	ザルシタベン(d40)	ハイビッド						フェニトイン(末梢神経興奮の増強)
	ネビラゼン(NVP)	ピラミューン						↓セイヨウオオトキリソウ
拮抗薬(第2スクオオチド系抗真菌系阻害薬)	エフビレンゾ(EBV)	スツクリン						↓セヨウオオトキリソウ
	テラセルジン	レスクリゾター						↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	インジナゼビル(INV)	クリキシン						↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	サキナゼビル(SQV)	フォートベイス						↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	リトナゼビル	ノーピア	エタノールを含むため 併用注意					↓セヨウオオトキリソウ
	ロシナゼビル(RN)	カトラ	エタノールを含むため 併用注意					↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	ネルスアゼビル(NV)	ピラセプト						↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	ホスナフルナゼビル	レクソグア						↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	アタナゼビル(ATV)	レイアタソ						↓セヨウオオトキリソウ
	ダルナゼビル	プリジスタ						↓セヨウオオトキリソウ、フェノバルビタール、フェニトイン
	ミコナゾール(MG2)	フロリード						Ⓢフェニトイン
	フルコナゾール(FG2)	ジフルカン						Ⓢフェニトイン
抗真菌薬	ボスフルコナゾール(B-FG2)	プロゾファ						Ⓢフェニトイン
	ボリコナゾール(BRG2)	ブイフェンド						Ⓢ↓長時間作用型バルビツール酸誘導体、↓フェニトイン、↓セヨウオオトキリソウ

Ⓢ 承認  
↓ 治療薬の作用増強  
↓ 治療薬の作用薬期  
Ⓢ 向精神薬の作用増強  
Ⓢ 向精神薬の作用薬期  
その他

表 15-1 循環器疾患-抗精神病薬

	クロルプロマジン	レボプロマジン	フルフェナジン	ゾテピン	ハロペリドール	スルトブリド	リスペリドン	ルーラン	クエチアピン	オランザピン	アリピプラゾール	プロナンセリン
ミオコール、ニトロペン、ミスロール	血圧低下	血圧低下	血圧低下	血圧低下								
ニトロール	血圧低下	血圧低下	血圧低下	血圧低下								
イノバン、ブレドパ	↓	↓	↓	↓	↓							
アトロピン	⇕	⇕	⇕	⇕								
◎：禁忌												
↑：治療薬の作用増強												
↓：治療薬の作用減弱												
⇕：向精神薬の作用増強												
⇓：向精神薬の作用減弱												
その他												

表 15-2 循環器疾患-抗不安薬

	ジアゼパム	プロマゼパム	ロラゼパム	アルプラゾラム	エチゾラム	ヒドロキシジン	タンドスピロン
ミオコール、ニトロベン、ミリスロール							
ニトロール							
レベタン	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕		
モルヒネ	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕		
◎: 禁忌							
↑: 治療薬の作用増強							
↓: 治療薬の作用減弱							
⇕: 向精神薬の作用増強							
⇕: 向精神薬の作用減弱							
その他							

表 15-3 循環器疾患-抗躁薬

	炭酸リチウム	カルバマゼピン	バルプロ酸	◎:禁忌
ミオコール、ニトロベン、ミリスロール				↑:治療薬の作用増強 ↓:治療薬の作用減弱
ニトロール				◇:向精神薬の作用増強 ◇:向精神薬の作用減弱
レバタン				その他
モルヒネ				
クリアクター				
アスピリン	◇		◇	
ブラビックス				
プレタール				
ラシックス	◇	低Na血症		
ジゴシン		↓		
ワソラン		↑		
ワーファリン		↓	↓	
レニベース	◇			
タナトリル	◇			
プロブレス	◇			
ニューロタン	◇			
ディオバン	◇			
アルダクトン	◇			
マンニトール	◇			
グリセオール	◇			

表 15-4 循環器疾患-抗うつ薬

	クロミプラミン	アミトリプチリン	アモキサピン	マプロチリン	ミアンセリン	トラゾドン	フルボキサミン	ミルナシプラン	パロキセチン	セルトラリン	◎:禁忌
ミオコール、ニトロペン、ミリスロール	血圧低下	血圧低下	血圧低下								↑:治療薬の作用増強 ↓:治療薬の作用減弱
ニトロール	血圧低下	血圧低下	血圧低下								◇:向精神薬の作用増強 ◇:向精神薬の作用減弱 その他
レベタン											
モルヒネ											
クリアクター											
アスピリン	◇	◇	◇	◇	◇		出血症状		出血症状	出血症状	
ブラビックス											
フレタール											
ラジックス											
ハンブ											
イノバン、プレドバ											
ドブトレックス	↑	↑	↑	↑	↑			↑			
ノルアドレナリン	↑	↑	↑	↑	↑			↑			
ミルリーラ											
メイロン											
アトロピン	◇	◇	◇	◇	◇						
ジゴシン										↑	
ワソラン											
キシロカイン											
シンビット											
アンカロン											
ワーファリン	↑	↑	↑	↑	↑		↑		↑	↑	



表 15-5 循環器疾患-睡眠薬

	クアゼパム	フルニトラゼパム	ミダゾラム	プロチアゾラム	ゾピクロン	ゾルピデム	◎:禁忌 ↑:治療薬の作用増強 ↓:治療薬の作用減弱 ⇕:向精神薬の作用増強 ⇓:向精神薬の作用減弱 その他
ミオコール、ニトロベン、ミリスロー							
ニトロール							
レペタン	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕	その他
モルヒネ	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕	
ワソラン			↑				
キシロカイン							
シンビット							
アンカロン			⇕				

表 16-1 消化器疾患-抗精神病薬

抗精神病薬													
	クロルプロマジン	レボメプロマジン	フルフェナジン	ゾチピン	ハロペリドール	スルトグリド	リスペリドン	ルーラン	クエチアピン	オランザピン	アリピプラゾール	プロナンセリン	
メトクロプラミド(プリンペラン)	↑ ↑				↑ ↑			↑ ↑					
	抗ドパミン作用を有するため、併用により抗ドパミン作用が強くなる。内分泌異常、錐体外路症状が出現しやすくなる												
H2 blocker								★					
								ともに胃酸分泌抑制作用を有するため、慎重投与					
シメチジン													
オメプラゾール													
◎: 禁忌													
↑: 向精神薬の作用増強													
↓: 向精神薬の作用減弱													
○: 治療薬の作用増強													
◇: 治療薬の作用減弱													
その他													

表 16-2 消化器疾患-抗不安薬

抗不安薬									
	ジアゼパム	プロマゼパム	ロラゼパム	アルプラゾラム	エチゾラム	ヒドロキシジン	タンドスピロン		
メクロプラミド(プリンペラン)									
H2 blocker									
シメチジン	↑	↑		↑		↑			
肝臓の薬物代謝酵素CYP2D6に対するの阻害が強く、代謝、排泄を遅延させ、血中濃度を高めるため 慎重投与									
オメプラゾール	↑								
クリアランスが27～55%減少する。代謝排泄を遅延させるため作用増強させる									
◎: 禁忌									
↑: 向精神薬の作用増強									
↓: 向精神薬の作用減弱									
⊕: 治療薬の作用増強									
⊖: 治療薬の作用減弱									
その他									

表 16-3 消化器疾患-気分安定薬

抗躁薬			
	炭酸リチウム	カルバマゼピン	バルプロ酸
メトクロプラミド(プリンペラン)		↑	
		機序は不明だが、カルバマゼピン中毒症状(眩暈、悪心、嘔吐、眩暈等)が現れる。神経症状(歩行障害、運動失調、眼振、複視、下肢反射亢進)が現れたとの報告がある	
H2 blocker			
シメチジン		↑	
オメプラゾール		↑	
		代謝を阻害し、血中濃度が上昇。急速に上昇し、中毒症状(眩暈、悪心、嘔吐、眩暈等)が現れることがある	
◎: 禁忌			
↑: 向精神薬の作用増強			
↓: 向精神薬の作用減弱			
⊕: 治療薬の作用増強			
⊖: 治療薬の作用減弱			
その他			

表 16-4 消化器疾患-抗うつ薬

		抗うつ薬										
		クロミプラミン	アミトリプチリン	アモキサピン	マプロチリン	ミアンゼリン	トラゾドン	フルボキサミン	ミルナシプラン	パロキセチン	セルトラリン	
メトクロプラミド(プリンペラン)												
H2 blocker												
シメチジン	↑			↑					↑		↑	
オメプラゾール												
スルファメトキサゾール・トリメトプリム(バクタ)			↓	↓	↓							
			代謝促進または、薬剤の受容体レベルでの拮抗作用により、抗うつ効果が減じる									
レトリプトファンを含むアミノ酸製剤、経腸成分栄養剤										↑ ↑	↑ ↑	
											レトリプトファンはセロトニンの前駆物質であるため、脳内セロトニン濃度が高まり、セロトニン症候群が顕れる	
◎: 禁忌												
↑: 向精神薬の作用増強												
↓: 向精神薬の作用減弱												
?: 治療薬の作用増強												
!: 治療薬の作用減弱												
その他												

表 16-5 消化器疾患-睡眠薬

睡眠薬							
	クアゼパム	フルニトラゼパム	ミダゾラム	プロチアゾラム	ゾピクロン	ゾルピデム	
メトクロプラミド(プリンペラン)							
H2 blocker							
シメチジン	↑	↑	↑	↑			
オメプラゾール							
◎: 禁忌							
↑: 向精神薬の作用増強							
↓: 向精神薬の作用減弱							
◇: 治療薬の作用増強							
◇: 治療薬の作用減弱							
その他							

表 16-6 消化器疾患-その他

	その他				
	シアナミド	ジスリフラム	ドネペジル	フルマゼニル	ダントロレン
メクロプロミド(プリンペラン)					
H2 blocker					
シメチジン					
オメプラゾール					
◎: 禁忌					
↑: 向精神薬の作用増強					
↓: 向精神薬の作用減弱					
◇: 治療薬の作用増強					
◇: 治療薬の作用減弱					
その他					

表 17-1 神経系阻害神経薬

	クロロプロマジン	レボプロロマジン	フルフェナジン	ゾチピン	ハロペリドール	スルトゾリド	リスベリドン	ルーラン	クエチアピン	オランザピン	アリピプラゾール	プロナンセリン
リナクタン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
テトラゼオール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アリピプラジン												
トピナ												
ラモクテル												
フェルハバル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リボトリール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
マイスダン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
レボドパミン	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
ドパミン/アゴニスト	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
シントレル												
低コリン薬	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
エナビ												
コムタン												
トプス	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
セレジスト												
セルトニン												
阻害伝達シグナル												
イムラン												
エンドキサン												
プログラフ												
サンチドミン												
◎: 禁忌												
↑: 投薬量の作用増強												
↓: 投薬量の作用減弱												
○: 向精神薬の作用増強												
○: 向精神薬の作用減弱												
その他												



表 17-2 神経疾患-抗うつ薬

	クロミプラミン	アミトリプチリン	アモキサピリン	マプロチリン	ミアンセリン	トラゾドン	フルボキサミン	ミルナンプラン	パロキセチン	セルトラリン
ワーファリン	↑	↑	↑			↑	↑		↑	
アスピリン							出血症状		出血症状	出血症状
イソコチン	○	○	○							
リマクタン	○	○	○							
トリプタン系薬剤							セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群	セロトニン症候群
テラナス							◎			
テグレトール	○	○	○	○		○	↑		↑	↑
アレピアチン	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑		↑	↑
トピナ		○								
ラミクタール										
フェノバル	○↑	○↑	○↑	○↑	○↑	○			○	
抗コリン薬	興奮薬	興奮薬	興奮薬							
エプビー	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
コムタン										
トプス	↑	↑	↑							
セレジスト										
セルトニン										
サンデイミン							↑			
◎: 禁忌										
↑: 治療の作用増強										
↓: 治療の作用減弱										
◎: 向精神薬の作用増強										
○: 向精神薬の作用減弱										
その他										

表 17-3 神経疾患-抗腫瘍

	抗腫瘍剤	抗がん剤	カルバマゼピン	バルプロ酸
	ワーファリン		↓	↑
	アスピリン	◇		◇
	メロベン			◎
	リマクタン		◇	
	チカドロン		↓	
	NSAIDs	◇		
	チバケン		◇	
	テグレトール	精神神経症状		◇
	アレピアチン		↑↑	↑↑
	エクセگران		↑	↑
	ガバペン			
	トピナ	◇◇		
	ラミクタール		↓	↑
	フェノバル		↓	↓
	リボトリール		欠神発作重積	
	マイスタン		↓◇	↓◇
	プログラフ		↓	
	サンディミュン		↓	
	免疫グロブリン			
	抗コリンエステラーゼ剤			
	ベタフェロン			
	◎:禁忌			
	↑:治療薬の作用増強			
	↓:治療薬の作用減弱			
	◇:向精神薬の作用増強			
	◇:向精神薬の作用減弱			
	その他			

表 17-4 神経疾患-抗不安薬

	ジアゼパム	プロマゼパム	ロラゼパム	アルプラゾラム	エチゾラム	ヒドロキシジン	タンダスピロン
リマクタン	⇕				⇕		
エサンブトール							
デカドロン							
NSAIDs							
トリプタン系薬剤							
チラナス							
テルネリン							
ミオナール							
チバケン							
チグレートール	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕		
アレピアチン							
エクセグラン							
ガバペン							
トピナ							
ラミクタール							
フェノバル	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕	⇕	
リボトリール							
マイスタン							
◎:禁忌							
↑:治療薬の作用増強							
↓:治療薬の作用減弱							
○:向精神薬の作用増強							
◦:向精神薬の作用減弱							
その他							

表 17-5 神経疾患-睡眠薬

	クアゼパム	フルニトラゼパム	ミダゾラム	プロチアゾラム	ゾピクロン	ゾルピデム
ジフルカン						
ファンギゾン						
イスコチン						
リマクタン	◇	◇	◇	◇	◇	◇
テグレートール	◇	◇	◇	◇	◇	◇
アレビアチン						
エクセگران						
ガハベン						
トピナ						
ラミクタール						
フェノバル	◇	◇	◇	◇	◇	◇
リボトリール						
マイスタン						
◎：禁忌						
↑：治療薬の作用増強						
↓：治療薬の作用減弱						
◇：向精神薬の作用増強						
◇：向精神薬の作用減弱						
その他						

トリアゾラムは禁忌